

サムライたちと足袋産業

18世紀後半には「忍のさし足袋」としてその名が知られていた行田の足袋製造には、忍藩士たちも携わっていたとされます。いつから藩士たちが足袋を作っていたのかは不明ですが、文政6年（1823）に忍から白河へ転封

となった阿部家では、忍藩時代に家臣が内職で行っていた足袋製造を白河でも普及させ、新たな特産物にしようとなりました。このことから、19世紀には家臣たちの間に足袋製造が広がっていたと思われる。

また、慶応2年（1866）の史料ですが、松平家臣の重森庫之丞は足袋の内職を始めるに当たり、足袋屋から預かった原料が盗難などにあった際の保証書を保証人と連署して提出しています。桑名からやってきた藩士たちも収入を



忍行社日誌

得るため、次第に足袋製造に関わっていったのかもしれない。明治になり廃藩置県や秩禄処分が入が激減した士族たちは本格的に足袋製造に乗り出しました。明治9年（1876）に編さんされた『武蔵国郡村誌』には、忍城と武家屋敷からなる成田町の足袋生産は白足袋と紺足袋を合わせて11万8千足とされており、士族たちの重要な収入源になっていたことが分かります。さらに明治15年に成田町の士族授産を目的として、足袋底製造会社である忍行社が設立されました。当時、全国的に士族たちの窮乏は大きな問題となっており、政府は士族授産のための資金貸付を行っていました。忍行社にはこの資金も投入されましたが経営は難航し、同23年には解散しました。江戸から明治へと時代が変わる中で、足袋産業に活路を見出そうとした士族たちの活動は、後の行田足袋の発展につながっていたのです。（郷土博物館 鈴木紀三雄）

はじめまして



平成30年10月生まれのお子さんを募集します

- 8月1日(木)～30日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、9月3日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



平成30年8月生まれのおともだち



熊倉 未菜実ちゃん(埼玉)  
平成30年8月1日生まれ  
父・達雄さん 母・友里江さん  
「いっぱい食べて大きくなあれ!」  
「いっぱい笑って」



森田 夢彩ちゃん(北河原)  
平成30年8月29日生まれ  
父・裕也さん 母・紋子さん  
「元気にスクスク育ってね♡」



加村 莉心ちゃん(柳田町)  
平成30年8月2日生まれ  
父・行則さん 母・利奈さん  
「笑顔と幸せをありがとう♡」



高木 晴太ちゃん(持田)  
平成30年8月13日生まれ  
父・賢一さん 母・泉さん  
「元ちゃんと遊ぶのが大好き!」



長谷川 亜蓮ちゃん(小針)  
平成30年8月16日生まれ  
父・瞬也さん 母・泉さん  
「元気に育ってね♡」



小林 來々ちゃん(下忍)  
平成30年8月26日生まれ  
父・愛さん 母・晴菜さん  
「元気にすくすく大きくなってね♡」

今月の表紙

12年目を迎えた本市の田んぼアート。今年のデザインは「ラグビー日本代表応援田んぼアート supported by リポビタンD」です。

古代蓮の里東側の水田では、6月15、16日に行われた田植えから約1カ月が経過し、屈強な日本代表選手の姿がはつきりと浮かび上がりました。本市からの「がんばれ日本代表」のエールは選手たちの心強い応援になることでしょう。

■ 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■ 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■ 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい  
植物油・インキ

市報ぎょうだは  
再生紙を  
使用しています